

有題 無題

深刻化する海洋プラスチック汚染

世界環境デー（6月5日）のある今月は環境月間だ。環境への影響が深刻化している「使い捨てプラスチックゴミ」「海洋プラスチック汚染」に世界の注目が集まっている。今月末に大阪で開かれるG20主要国首脳会議でも主要議題の一つとして取り上げられる。

安価でさまざまな形状や色に加工できるプラスチックは便利で、幅広い分野で使われている。しかし、非常に頑丈で、自然の中に捨てられると微生物が分解できず、残ってしまったり、かきいなものだ。

特に問題となっているのはプラスチックによる海洋汚染。毎年800万トン以上が海に流れ込み、このままでは2050年までに海の中は重量パー

国連広報センター所長 根本 かおる



ねもと・かおる 86年（昭61）東大法卒、同年テレビ朝日入社。米コロムビア大学大学院国際関係論修士修了。96年から国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）で難民支援活動に従事。世界食糧計画（WFP）広報官、国連UNHCR協会事務局長なども歴任。13年から現職。神戸市出身。

スで魚よりも多くなると見られている。さらに、海に流れ込んだプラスチックゴミは紫外線や波の力などで砕かれて5ミリ以下の「マイクロプラスチック」になり、有害物質を吸着しやすいとされる。魚介類に取り込まれ、食物連鎖で人間を含む動物に悪影響を及ぼす危険性も指摘されている。

今年3月にケニアで開催された「第4回国連環境会議」でも中心議題として取り上げられた。各代表は「30年までに使い捨てプラスチック製品を大幅に削減すること」を約束し、「民間セクターとの連携により、手ごろな価格で環境にやさしい製品の発掘に努めていく」としている。

さらに5月には「有害廃棄物の国境を越える移動およびその処分の規制に関するバーゼル条約」の締約国が日本とルウエーの共同提案で、汚れたプラスチックゴミ（廃プラ）を輸出入の規制対象に加えることで合意。これまでリサイクル資源として、先進国から主に中国・東南アジアなどへ輸出されていた廃プラが輸入先で環境汚染を招いていることが問題となってきたためだ。

世界規模で廃プラの輸出入を規制する制度は初めてで、今後は各国が国内で処理する必要性が高まったと言えらる。一人当たりで最終稿となる。今回で最終稿となる。DGSを、自分の周りの課題と世界レベルの目標とを結び付け、足元の行動をよりスケール感をもつて実践する枠組みにしたいだければ幸いである。

ゴミ発生量減らす行動が大切

プラ）を輸出入の規制対象に加えることで合意。これまでもリサイクル資源として、先進国から主に中国・東南アジアなどへ輸出されていた廃プラが輸入先で環境汚染を招いていることが問題となってきたためだ。

毎年、世界で使われるレジ袋の数は最大で5兆枚で、1分間に約100万本ものペットボトルが売られている中、「捨てるなら、もらわない」をモットーに、プラスチックゴミを減らすために一人ひとりが考え行動することが大切だ。

今回で最終稿となる。DGSを、自分の周りの課題と世界レベルの目標とを結び付け、足元の行動をよりスケール感をもつて実践する枠組みにしたいだければ幸いである。

今回で最終稿となる。DGSを、自分の周りの課題と世界レベルの目標とを結び付け、足元の行動をよりスケール感をもつて実践する枠組みにしたいだければ幸いである。

今回で最終稿となる。DGSを、自分の周りの課題と世界レベルの目標とを結び付け、足元の行動をよりスケール感をもつて実践する枠組みにしたいだければ幸いである。